令和4年度　ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト本選

報 告 書

2022年9月10日、福島市の自治会館を審査会場に「令和４年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト」本選が開かれました（主催：福島県教育委員会・一般社団法人ふくしま学びのネットワーク（運営事務局）、共催：福島大学アドミッションセンター）。今年度の本選は感染症対策のため、Web会議システムを利用したオンライン開催でした。予選の書類審査を通過した県内各地の12グループが、自分たちが行っている社会貢献活動について発表しました。

福島県内の高校生の社会貢献活動はとても活発で、主体的な課題発見・解決型の探究学習や、サービスラーニング（活動を通じた学び）としても注目されています。報告書では、本選出場グループの活動をご紹介します。

活動紹介

グループ名 〉 **会津若松ザベリオ学園高校 インターアクトクラブ**

活 動 名 〉 **ザベランド**

2021年５月に始動した「ザベカフェ」の活動を広げ、より高校生も子どもたちも参加しやすくなるような、地域の遊び場・交流の場の創出に取り組んでいます。

これまでの活動から「子どもたちや保護者は、家や学校とは別の場所での、人との繋がりを求めているのでは」と考え、2022年４月に「ザベランド」をスタート。小学生を対象とした、モノづくりを通した遊びの場と、幼児・保護者を対象とした、遊び・モノづくりを通した交流の場を、自分たちの手で作り上げています。活動には高校生約40名が参加し、小学校などでのチラシ配布も行っています。

小学生を対象にガラスタイルコースター作りや風船ランプシェード作りを行ったほか、高校生の手作りおもちゃで幼児と遊んでいる間に、保護者の方に花びら手形アートを楽しんで頂くなど、「ザベランド」の活動は多岐にわたります。参加した保護者からは「親も精神的に充実したひとときでした」「また是非参加したいです」など、たいへん高い評価を頂くことができました。

活動紹介

グループ名 〉 **いわき湯本高校 総探特別チーム（家庭クラブ）**

活 動 名 〉 **Sustainable Deliciousness**

いわき市には美味しい地元食材がたくさんあります。SDGsの考え方を取り入れ、いわきの食材（廃棄食材）を使用した商品を開発・商品化することで、いわきの食材を全国にPRしようと活動を始めました。

自分たちで発案し、講習会を実施してIwaki 野菜アンバサダーを取得。地元食材への理解を深めた上で、廃棄率の高いいわき葱とエリンギ、循環型農業を取り入れているサンシャイントマト、伝統野菜のおくいもを食材とするメニューの開発に挑戦しました。食材の特徴をつかみ、考案した「Iwaki たっぷりハヤシライス」はコンテストで優秀賞を受賞。コラボ企業であるビストロあん庵さんで提供され、予約時点で完売となりました。

中間評価で改善点を洗い出した後、株式会社マルトさんからの依頼を受け、大量生産向けに「Iwaki たっぷりハヤシライス」のレシピを改善。記者会見でもSDGsと商品の関わりを説明し、いわきの美味しい食材をPRすることができました。商品は大人気で、QRコードを通じた動画配信などでも、商品に込めた思いを発信しています。その他、和菓子甲子園・十勝マルシェ（共に全国大会）にて、Iwakiの食材や調味料をPRしました。

活動紹介

グループ名 〉 **岩瀬農業高校 生物生産科 養鶏専攻班**

活　動　名 〉 **JGAP畜産物を活用した新商品開発「愛情たっぷりん」の開発**

高校のある鏡石町の「まちの駅・かんかんてらす」では、オープン当初から生徒の手による鶏卵を販売しています。日本で初めて、乳用牛・肉用牛・養鶏の３部門同時にJGAP認証を受け、飼育衛生管理を徹底した岩瀬農業高校の鶏卵は地域の方からも大人気です。

鏡石町初の地域おこし協力隊の方がこの鶏卵に注目し、生徒と協力した商品開発を提案してくださいました。商品開発については未経験でしたが、町の産業課からも協力を依頼され、生徒４名を中心に商品開発班を結成しました。

大人の方たちとチームを結成し、開発する商品は老若男女が購入しやすいプリンに決定。アレルギーの方も食べられるよう、豆乳プリンも作ることを提案しました。味にこだわるため、様々な年代の方へのアンケートを実施し、試食と調査をくり返しました。ネーミングも高校生の意見を取り入れて頂き、「愛情たっぷりん」と命名。その他、イラストやプリンの量・入れ物、値段なども生徒たちが知恵を絞りました。完成した商品は「かんかんてらす」で数量限定販売。「愛情たっぷりん」は大人気で予想以上の反響が続いています。

活動紹介

グループ名 〉 **喜多方高校 生活部菊芋班**

活　動　名 〉 **食べて健康!幸せのキクイモプロジェクト!**

活動を始めたきっかけは、肥満傾向児の出現率や、成人のメタボリック症候群の割合などが高いという、福島県の健康課題について話し合ったことでした。食生活の改善がポイントだと考えていたところ、健康食材であるキクイモを広める地域の方と出会いました。

水溶性食物繊維であるイヌリンの含有量が最も高いキクイモは「食べるインスリン」とも呼ばれ、血糖値の上昇を抑える効果が期待でき、腸内環境も整えてくれます。しかし校内アンケートでは知名度が低く、食べ方を知らない人が多いことが分かりました。

そこでキクイモを知らない若者をターゲットに、スイーツを開発したり、菊芋ブランド「幸せのキクイモ」を立ち上げ、キャラクターを作ったりすることで知名度アップを図りました。スイーツは校内での試作と試食をくり返し、キクイモブラウニーが完成。地元の人気店の協力を得て販売しています。また青年会議所と連携した学校給食メニューの開発や、地元企業と協働したキクイモ餃子を開発して販売・PR活動をするなど、地域での幅広い活動を展開し、キクイモの認知度を向上させることができました。

活動紹介

グループ名 〉郡山女子大学附属高校 研究部（特別進学クラス）

活 動 名 〉児童を対象としたScratch3.0を用いた地域理解の学習教材の開発

研究部は昨年、新たにつくられた部活動です。新型コロナウイルス感染症の流行により、地元・郡山市の魅力ある場所を訪れ、体験活動をする機会が制限されている子どもたちに、家庭で気軽に楽しめる学習教材を提供しようと活動を始めました。コロナ禍で人気が高まるボードゲームに着目し、郡山を舞台とするすごろくをつくろうというアイディアです。

市内の小学生280人を対象に郡山の好きな場所や好きな食べ物についてのアンケートを実施し、小学生や小学校の先生の意見を踏まえ、すごろくを作成。先行するボードゲームも研究し、紙製ではなくデジタルの良さを活かそうと考え、県内の企業などに学びながらプログラミング言語Scratch3.0を使用することにしました。地域理解のためのクイズを作成したり、ハザードマップを確認するマスを入れたりと工夫を凝らした「郡山すごろく」は、小学生にも大好評。実施後のアンケートでは「ゲームをしながら郡山のことを知れて良かった」「お姉さんたちみたいになったら、こういうゲームを作りたい」といった回答もあり、子どもたちの学習意欲を引き出すことに成功しました。

活動紹介

グループ名 〉白河高校 まちカメラマン

活 動 名 〉まちカメラマン

地域のなにげない日常や忘れたくない瞬間を、高校生ならではの視点で切り取り、ともにその時の感情を思い出せるよう、記憶を共有することを目的とした個人プロジェクトです。ファインダー越しに写真を撮ると、普段目で見ている光景とは違ったように見えることに魅力を感じて活動しています。まちの人から気軽に頼られることを目指し、「まちカメラマン」の名前でまちなかの店舗や施設、イベント、高校生の活動を記録・発信しています。

これまでの活動は、白河市立図書館の宣材写真の撮影や、音楽フェスティバルでの記録写真の撮影、昨年度の「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」で最優秀賞を受賞した高校生の活動「手話カフェ」の記録など、多岐にわたります。地元の呉服店とコラボし、浴衣でまち歩きをしながら撮影することで、白河の新たな魅力にも気づくことができました。

活動を続けることで、写真への向き合い方や、ひととの関わり方、まちとの関わり方にも変化が生じました。これからも「まちカメラマン」の活動を通して、ひととひと・まちとひととが、つたえる・つながる連鎖をひろげていきたいと考えています。

活動紹介

グループ名 〉 **平工業高校 生徒会**

活　動　名 〉 **身近なことから始まるボランティア活動**

「すべては喜んでくれる人たちの笑顔のために」を活動理念に、先輩たちが始めた社会貢献活動を22年間継続しています。平成12年から続くアルミ缶回収による老人ホームへの車いす寄贈では、これまでに80万個近いアルミ缶を回収しています。業者に委託し換金することで、今年は44台目の車いすを老人ホームに寄贈することができました。平成18年から続くアフリカ・マリ共和国へジャージや運動靴を贈る活動では、これまでに１万点近い支援物資を贈っています。ペットボトルキャップ回収による世界の子供たちにワクチンを贈る活動では、手作業による地道な選別を積み重ね、開始から200万個以上を回収し、2,380人分のワクチンを贈ることができました。

生徒会の活動はこの他にも、学校でのCO2排出量を削減し、温暖化防止にみんなで取り組む令和３年度「福島議定書」事業や、緑化委員会と連携した清掃・植栽などの活動、木のぬくもりを感じ、想像力を高める子供用おもちゃの作製と保育所への寄贈など多岐にわたります。活動を通し、メンバーはコミュニケーション能力や愛着心など、多くの成長を遂げました。

活動紹介

グループ名 〉 **田村高校 滝桜ボランティア隊**

活　動　名 〉 **滝桜観光ボランティア**

学校の所在する三春町の観光名所・滝桜でボランティアを行いました。滝桜だけを見て帰ってしまう人を三春町内に呼び込み、町の魅力を知ってもらうことで、地域の活性化や経済の循環に繋げることが目標です。昨年度の活動ではミニガイドブックの作成やアンケートを実施し成果を上げましたが、「アンケートは観光客にとってのメリットが少ない」「ミニガイドブックの部数が少なく、町内への呼び込みが弱かった」などの反省点もありました。これらの反省を活かし、今年度はグレードアップさせた観光パンフレットの作成や、三春町内へ人を呼び込むためのスタンプラリーの開催、クーポン券の配布などを企画。自分たちで三春町役場や商工会などに説明に行き、大人を巻き込んで活動を展開しました。

３年生を中心とする36名がボランティアに参加し、観光パンフレット作成のための取材や、スタンプラリーのための消しゴムハンコづくりなどの準備に奔走。当日のボランティアでは多くの方からあたたかい言葉を頂けたほか、町内のお店などからも「パンフレットや田村高校生の案内のお蔭で、お客さんが増えた」と高い評価を頂くことができました。

活動紹介

グループ名 〉 **福島県立聴覚支援学校高等部 情報工業科**

活　動　名 〉 **環境整備事業による飛沫防止パネルの製作**

幼稚部から高等部までの幼児児童生徒が学ぶ、福島県立聴覚支援学校。高等部・情報工業科の生徒は、自分たちが学んできた専門知識や技術を使って人の役に立ちたいと考え「環境整備事業」を行っています。これまでも校内の要望に応じ、小学生の体型に合わせた図工室の椅子の製作や、体育館へのLANケーブル敷設工事などをしてきました。

新型コロナウイルス感染症の流行は、学校生活に大きな影響を及ぼしました。聴覚障がい者にとって口の動きを読み取ることは大切なコミュニケーション手段の一つですが、マスク生活により相手の思いや考えがうまく分かり合えないと感じることが増えたのです。そこで状況を少しでも改善しようと、校内で使用する飛沫防止パネルの製作に取り組みました。設計、資材調達、試作・製作までを一貫して行い、27台のパネルを納品。既製品よりも安価で持ち運び可能などの特徴があります。パネルのお蔭で感染症対策が向上し、仲間と一緒に食事もできるようにもなりました。生徒たちは活動を通して「障がい者の暮らしは、自分たちの力で豊かにできる」と実感できた、と力強く発表してくれました。

活動紹介

グループ名 〉 **ふたば未来学園高校 社会起業部 カフェチーム**

活　動　名 〉 **可能性はここからはじまる!!cafeふぅよ変革者たれ**

震災・原発事故により課題が多く残る双葉郡。高校生として地域と向き合っていきたい、と考えた先輩たちが、変化・交流・居場所が生まれるカフェを一から作り上げました。2019年6月に校内にオープンした「cafeふぅ」です。cafeふぅは高校生が主体となって運営するカフェとして地域住民の方からも愛されていましたが、2020年からのコロナ禍で様々な制限が生じることとなりました。

コロナ禍でカフェの客数や売り上げも減少する中、生徒たちは自分たちに何ができるかを話し合い、双葉郡の８つの町村にスポットライトを当て、1か月1町村をテーマとした活動を始めることにしました。学校を飛び出し、それぞれの地域での活動に取り組んだ生徒たち。双葉町のだるま作りや楢葉町での藍染め体験などを通して、双葉郡の「今」を学びました。現在、cafeふぅは美術部とコラボし双葉郡の町村をモチーフにした壁画作成や地域の企業・行政との連携を実施。メディアやSNSを通した双葉郡についての発信やオンラインショップの活用など、コロナ禍の今だからできること、やるべきことに取り組んでいます。

活動紹介

グループ名 〉 **ふたば未来学園高校 みらい防災**

活 動 名 〉 **ひとりひとりが取り組む防災**

高校一年生の時、浪江町の震災遺構・請戸小学校を訪れたことをきっかけに活動を始めました。手足の抹消の筋肉が徐々に衰える難病で短下肢装具を使っており、同じ状況になった時に自分は津波から逃れることができるのか、不安になったためです。難病や障がいを持つ人が安心安全に避難するためにどうすれば良いかを考え、以前に支援学校で勤務されていた先生にお話を伺い、障がいがある方の避難には知識と人の助けが必要だと分かりました。

防災についての調査を続けると、障がいが軽度の場合は要配慮者となり、避難行動要支援者制度の対象外になることも判明。そこで身体的な特徴や苦手なこと、配慮してほしいことなどを短くまとめた「マニュアルカード」作成に取り組みました。

さらに学校に働きかけ、学校主催の避難訓練の中に、防災についてのワークショップを自分たちの手で立案・企画・実施。在校生や地域の方にも防災について考えてもらおうと、高校の文化祭の展示では防災についての○×クイズや防災ポーチ投票なども行いました。災害時には高校生が支援者側になることも重要だと考え、幅広い活動を展開しています。

活動紹介

グループ名 〉 **船引高校TEAM☆FUNEHIKI**

活 動 名 〉 **伝える、つながるプロジェクト**

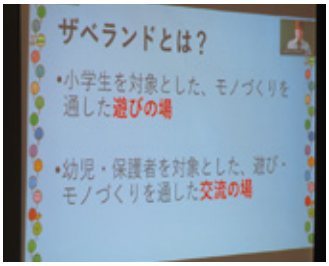
学校のある田村市は、東日本大震災時に都路町が避難準備地域となり、その後の風評被害や若者の減少、豪雨災害など様々な地域課題を抱えています。そこで船高アクティブリーダー育成プロジェクトと家庭クラブのメンバーを中心に、船引高校のメンバーでTEAM☆FUNEHIKIを結成。コロナ禍で地域との結びつきが少なくなる中、地域の良さや自分たちが学んだことを伝え、地域の結びつきを強めようと様々な活動を展開しています。

キクイモを使用した田村市の新たな特産品づくりでは、地元企業とコラボしてキクイモパウダー入り台湾カステラ「ふわっテラ」を開発。イベントを通じ地域住民との交流を深めました。また、地域の防災について考える活動では、災害時の非常食について市役所職員と意見交換を行ったほか、地域の防災訓練への参加や防災講座の受講などを重ね、自分たちが学んだことをもとに「防災ファイル」を作成し、市内の小中学生や地域住民に配布しました。

活動の原点である東日本大震災についての学習や、多様性の尊重についての学びも深めています。自分たちの活動が地域との結びつきを深め、未来に繋がることが目標です。

コンテスト本選では各グループのプレゼンテーションと、審査員の先生方からの質疑応答が行われました。オンラインでの開催でしたが、どのグループも地域や社会の課題を高校生の力で解決したいという熱い思いが伝わってきました。審査員の先生方による厳正な審査の結果、別表の通り各賞が決定しました。

受賞者には、福島県教育委員会の大沼博文教育長と、審査委員長の田中明先生（福島大学副学長・アドミッションセンター長）から賞状が贈られました。みなさん、本当におめでとうございました!



令和4年度 ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト 本選結果

福島県教育委員会より

最 優 秀 賞

- ふたば未来学園高校 みらい防災

優 秀 賞

- 田村高校 滝桜ボランティア隊
- 福島県立聴覚支援学校 高等部 情報工業科
- ふたば未来学園高校 社会起業部 カフェチーム

入　　選

- 会津若松ザベリオ学園高校 インターアクトクラブ
- いわき湯本高校 総探特別チーム（家庭クラブ）
- 岩瀬農業高校 生物生産科 養鶏専攻班
- 喜多方高校 生活部菊芋班
- 郡山女子大学附属高校 研究部（特別進学クラス）
- 白河高校 まちカメラマン
- 平工業高校 生徒会
- 船引高校 TEAM☆FUNEHIKI

福島大学アドミッションセンターより

福島大学アドミッションセンター長賞

- いわき湯本高校 総探特別チーム（家庭クラブ）
- 喜多方高校 生活部菊芋班
- 平工業高校 生徒会

社 会 貢 献 賞

- 本選出場の全グループ

コンテスト本選の様子を動画配信中!

https://www.fks-manabi.net/

今年度のコンテスト本選は感染症対策のためオンライン開催とし、一般見学は行いませんでした。当日の模様は、「ふくしま学びのネットワーク」公式サイトで動画を配信中です。ぜひご覧ください。

令和 4 年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト本選 報告書（2023 年 2 月発行）
主催　福島県教育委員会、一般社団法人ふくしま学びのネットワーク（運営事務局）
共催　福島大学アドミッションセンター
※本報告書 PDF 版は「ふくしま学びのネットワーク」公式サイト（https://www.fks-manabi.net/）からダウンロードできます。